

二酸化炭素の送気

二酸化炭素の送気装置；

通常内視鏡検査を施行する時には、空気を送気して消化管の管空を広げます。しかし一度空気を送気すると吸引しても深部に送られた空気は、吸引できません。管空にある空気のために次第に腹部が膨満し、腹痛が生じてくる場合があります。これは、長時間に及ぶ検査や治療では、顕著に見られます。そのために検査や治療を中止せざるを得ない場合もあります。また極端な場合には、血圧の低下や除脈になる事があります。これらを防ぐために二酸化炭素の送気装置を用いております。

二酸化炭素は吸収が非常によく、すぐに吸収されます。送気を中止すると消化管の張りは、速やかに改善します。そのために検査中や検査後の腹部膨満感は、改善し安全で快適な検査を提供できます。また鎮静剤や鎮痛剤を併用するとより楽に検査を受けていただけます。緊急出血時には、上部内視鏡、大腸内視鏡にて診断ができなければ、同日に経口、経肛門小腸内視鏡検査による検査も可能になりました。このような事は、従来の空気送気では困難でした。二酸化炭素の送気装置を用いる事により、迅速にしかも安全に内視鏡検査を施行できるようになりました。また新人医師の研修時にも速やかに上級医師による確認が可能になりました。私達は、レジデント先発でも上級医と大腸内視鏡の挿入率にも差がない事を確認しております。